

モチーフと文様 わーくしーと 金工作品編



きっしょうめんめん
《吉祥綿々》
つだしのぶ
津田信夫

工芸品には生活の中で使うという目的があります。そして生活を楽しく豊かにするために、面白い形にしたり、すてきな文様をつけます。

作品自身は語りませんが、作品の形や文様は作家のメッセージを伝えています。

形や文様は、昔から少しずつ変化しながら伝わってきたものなので、何をモチーフにしているか、どんな文様がそこにあるのかを見ることで、人間が持ち続けてきた願いを知ることができます。

作品に託されたそのような願いの一部を、ここでは紹介します。また、あなたならどう思うかを4つのわーくしーとで教えてください。



かじはいおとし かとりほつま
《鹿耳灰落》香取秀真
取っ手は鹿です！



こうもりもんはいざら かとりほつま
《蝙蝠文灰皿》香取秀真
ここにコウモリが何匹いるかな？



すいきんじからどうつぼ
《水禽耳唐銅壺》
やまもとじゅんみん
山本純民
取っ手にいるのは、
何でしょう？

……千葉県立美術館の金工作品から文様を見てみましょう！……

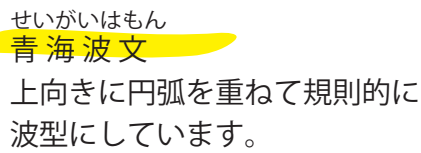
◆海にまつわる文様



拡大すると



うろこもん
鱗文
魚の鱗からきた文様です。
三角形を規則的に並べて
います。



上向きに円弧を重ねて規則的に
波型にしています。

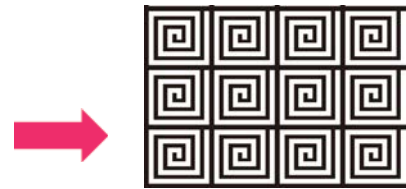


正六角形を基本とする幾何学
文様です。亀のこうらから、
生まれました。

◆天気まつわる文様



拡大すると



雷雨をかたどった文様です。
直線が四角く渦巻いています。

◆生活まつわる文様

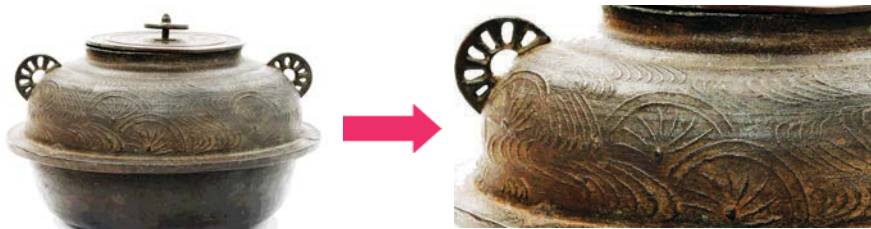
かたわぐるまもん

片輪車文

ぎっしゃ

平安時代の貴族は牛車で移動していましたが、その車輪は木製だったので、乾燥するとひび割れしたり、脱輪したりしました。そのため、時々、車軸からはずして流水に浸してなおす習慣がありました。

川から半分出ている車輪と流水の流れが美しい文様として今日に伝わっています。川の流れの中で漂う車輪の姿は人の世のはかなさにもなぞられました。



◆動物や植物にまつわる文様

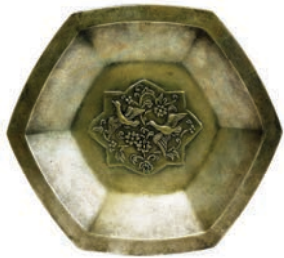


ぐんかちくかびん かとりほつま
《群鹿馳駆花瓶》香取秀真

しゅりょうもん

狩猟文

笑顔で走る、楽しいシカの
追いかけっこに見えますが、
もととなったのは狩猟で、
逃げ惑う動物とされます。



かちょうもん ぼん かとりほつま
《花鳥文さはり盆》香取秀真

かちょうもん

花鳥文

草花と鳥を組み合わせた
文様だよ！



ずいかもんかびん かとりほつま
《瑞華文花瓶》香取秀真

ずいかもん

瑞華紋

古代に中国から伝わった
花模様で花の形をしてい
ますが、いろいろな花の
良い所を組み合わせで作
った空想上の花です。
ずいかもん ほうそうげもん とうかもん
瑞花文・宝相華文・唐花文
ともいいます。

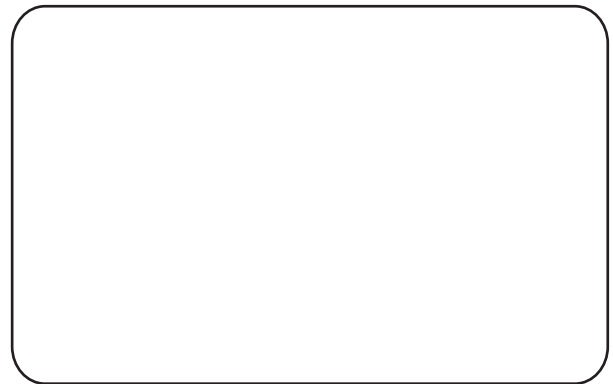
♣わーくしーと1 かんたんな文様を發明しましょう！

すてきな文様が見つけれたら、今度は
あなただけの文様を發明しましょう！

作った文様の名前とヒントになったもの
を教えてください。ヒントにするものは、
人・植物・動物・自然・昆虫、なんでも
もいいよ！ここにはないものでもいいです。

文様の名前 ()

ヒントになったもの
()



あなたの考えた文様

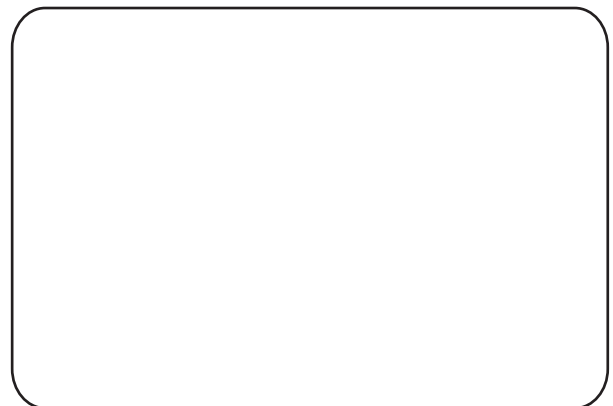
♠わーくしーと2 器を作るとしたら？

あなたの好きな動物や植物を使って、器を
作るとしたらどんな器を作りますか？

下図を描いてみましょう。

モチーフにしたものは何ですか？

モチーフとなったもの
()



あなたの器の下図

…千葉県立美術館の金工作品からモチーフを見てみましょう！……

◆わーくしーと3 架空の生き物について考えましょう！

昔の人達は、人間よりすぐれた力を持った架空の生き物たちを考え出しました。あなたは次のどの生き物が好きですか？名前を○で囲んでください。好きな理由は何ですか？



(好きな理由)

♥わーくしーと4 架空の生き物を考えましょう！

自分の夢をかなえてくれる、才能を持った架空の生き物を考えましょう。

それは何という名前ですか？

どういう身体の特徴を持っていますか？

どんな力、才能を持っていますか？

(名前と特徴)



◆異国から日本に来た動物たち！

異国からもたらされた動物モチーフは、元来、日本にはいなかった動物たちです。ゾウやラクダなど異国の動物たちを初めて見た昔の人々の驚きは大変なものだったそうです。

奈良県にある正倉院は、美術工芸品がたくさん収められている倉庫で、シルクロードを渡って日本にもたらされた品も多く收藏しており、そのモチーフは異国情緒豊かです。



こうもりもんはいざら かとりほつま 《蝙蝠文灰皿》香取秀真

◆楽しい犧首！

青銅器の表面に付けられた立体的な獣面を犧首と呼びます。《鹿耳灰落》では鹿の首から上、角までが犧首であり、持ち手の役割をしています。

犧首には、鹿・水牛・虎・羊・龍・鳳など角が渦巻いた動物が多く使われています。それらは部族の信仰により、神格化された動物たちでした。

《水禽耳唐銅壺》は、水禽（水上生活をすする鳥）の取っ手のついた花瓶ですが、犧首を応用したものです。



かじはいおとし かとりほつま 《鹿耳灰落》香取秀真

すいきんじからどうつぼ やまもとじゅんみん 《水禽耳唐銅壺》山本純民